生徒の興味・関心からスタートする探究活動の実践

北海道釧路江南高等学校　学級数１５（校長　木部　悟）

□　実践の概要

本校は創立１０４年の歴史を持つ全日制普通科単位制高校である。３年間で取り組む「総合的な探究の時間」により、３年間の学校生活を通して「江南力」として掲げている身に付けさせたい５つの資質・能力を育成するなど、学校教育目標達成に向けた教育活動を展開している。

１　実践の目的

「江南力」は、生徒・教員ともに日々の学習活動をはじめ、日常生活の基盤となっている。３年間の「総合的な探究の時間」の流れは次のとおりである。

１年次　前期は「自分の興味・関心」、「社会課題」など自身の進路選択の一助となる活動、後期は教員が探究テーマを与え「情報収集→整理・分析→まとめ・表現」のサイクルを身に付ける探究活動をグループ単位で行う。

２年次　課題設定をはじめとしたすべての探究サイクルを個人(少人数)ベースで行っている。７月にAction Dayとして校外や地域に出て探究活動を行う。

３年次　進路実現につなぐための志望理由の作成や自分に必要な資質･能力を付けるための探究活動を行う。また、２月の江南探究フォーラムで学習成果を発表し、質の高いものは３月の全校発表で共有する。

２　実践内容

(1) バリエーションを広げたプレ探究活動

教員が伴走しやすいよう「生徒と取り組んでみたいこと」をテーマとすることを可能にしたことで、探究活動の幅が広がった。インタビューから発表までを英語で行い、工夫したデザインの発信で地域をアピールする探究など、教科や教員の専門性を活かした活動が広がっている。

(2) Action Dayの実施による探究の質の向上

課題となっていた調べ学習に終始した取組が減少し、地域の方々など、他者と関わることで内容により具体性と説得力が生まれている。

例①「猛禽類の鉛中毒を減らすことは可能か」

釧路湿原野生生物保護センターへのインタビュー、猟友会訪問や実験を行ったことで、非常に質の高い探究となった。

例②「釧路の人はミネラルウォーターを買うべきか～釧路の水道水とミネラルウォーターの消費について」

釧路市上下水道部へのインタビュー、アンケートの実施により、「水」を軸に、ＳＤＧｓや世界に視点を広げるなど多方向からアプローチすることができた。

(3) 「社会との共創」プロジェクト（アントレプレナー型）への参加

１年次生徒を対象にメンバーを公募しスタートさせた。一人一台端末の導入に伴い、机の端末が落下する困り感を課題に「学校の机の課題を解決するために」の活動を始めた。

釧路市内３校に机の大きさや机からの落下､ストレス､商品の希望購入価格帯についてアンケートを取り、現状把握をした。教科書スタンドを制作し､ニトリ商品部とのミーティングを経て､「たてる君」を開発した。１月の発表や探究チャレンジ・北海道ではたくさんの生徒からの質問、同じ学年の参加者からの共感や応援のメッセージをはじめニトリ社員からも高い評価を得ることができた。

【探究チャレンジ・北海道での発表】

【教科書スタンド「たてる君」】

【Zoomを活用したインタビュー】

３　実践のポイント

○　探究活動を通して生徒の自己肯定感や発信力が向上している。１、２年次ともアプリを活用することでデータ共有もできるようになり、効果的に作業を行うことができている。

○　「社会との共創」プロジェクト参加を通して、企業の考え方・他者の意見を取り入れることで視野が広がるとともに、他者への伝え方を考えるなど、あらゆる場面において思考を深めることができている。